

月惑星研究会例会通信 No.116

- 日時：2005年3月21日（春分の日）13時～17時
- 場所：川崎市多摩市民館 第5会議室

1 今回は多数の学生が参加。中には始めての人もいたので、始めに鈴木達彦氏による月惑星研究会の説明や、かつての大学天文連盟（惑星分科会）との関わりや、天文アマチュアの構成や、天文人口の現在・過去・未来などについて説明。

2 自己紹介

鈴木達彦 相変わらず会社の仕事が多忙。カバも多忙でなかなか来られない。
 田邊 剛 東海大学天文宇宙同好会委員長。大学の天文台の20cmより自宅の10cmでの観測がメインになっている。今シーズンのスケッチ枚数は現在51枚と順調。
 大崎光司 東海大学天文宇宙同好会。学科の専攻は物理。天文は初心者なので仲間を大切にしたい。八王子に住んでいるので大学までの通学2時間がしんどい。
 中村桂樹 東海大学天文宇宙同好会。高校ではやりたくても天文サークルがなかった。これから頑張りたい。小田原に住んでいるので大学まではスグ。
 大塩裕哉 明治大学天文部。写真をやりたい。
 相川貴志 明治大学天文部惑星班長。明治大学付属明治高校には自慢の15cm屈折があったが、場所から空がとんでもなく明るく、惑星しか見えなかった。以降ずっと惑星一筋。
 三品利郎 20cmで観測している。今日は土星のハイリゲンシャイン現象で発表したい。
 平林 勇 過去のデータの保存を考えている。最近凄い火球を見た。

3 近況（鈴木）

RS 全体的に淡い。試しに6cm屈折（昔のダウエル製）で見たら見えなかった。（三品）
 CMTでは前端100度、後端114度で長径14度となっている。（2/26 田邊）
 アーチはあまり見えない。
 大赤斑内部の南縁後方部分（RS following shoulder）に赤い部分あり。
 RsstreakがRS前方上部に有、RSに巻き込まれた暗斑が回って出てきた感じ。
 STrZ 目立つ暗斑あり、徐々に形を変えながら後退してきている。（0-5度）
 STB RS前方で南に曲がっている。
 LEBS 明るく目立つ。BA-RS間のSTBは暗い。BA前方のSTBは淡いが、替わってSSTBはここから先が見えている。（平林）
 EZ 全体にfestoonは淡くコントラストがない。
 EBは眼視では分からないが、写真には写る。
 NEB 濃く・太く、凹凸がでてきた感じ。N側にnotchがある。ベルト内部、N端より1/3位内側の緯度にbargeがある。経度により（0-180度）赤味が強い。（三品）
 NTrZ ここに白斑が出たら、即私のところ042-592-4144へ電話。深夜でも可。
 NTB 20cm程度では見えない。私の25cmでも眼視では無理。画像で淡いベルト状。

4 パソコンによる画像処理の実演（平林）

Registaxによる画像処理の秘伝を、実際に取込んだ木星で実演。永年愛用のパソコンは40Gあってもすぐ満杯になる。データの保管が大変。この話は学生にも興味深いもので、とても好評でした。
 同時に撮影の方法（機材）についての紹介。ToUCamの接続方法の実際などの話。

5 画像による土星（平林）

最近の土星を画像で見ると、SPRの周囲は赤味があり、STrZが明るい。

6 土星のハイリゲンシャイン効果（三品）

ビー玉を使った実験で照明。ちょうど水滴に太陽光が正面から当たると、明るく見える。実際には1つ1つはB環で1cm-7cmのサイズといわれ、これが水球状に近いとすればこの効果がでる。また軽石のような物の場合では一粒一粒の穴の影が全体を暗くするが、正面から光が当たっている場合に明るくなるオポジション（衝）効果がはたらく。特に凸凹が大きい物体の場合にはこの効果が強く出ると思われる。

今回は現役学生が5名参加されましたが、全体的に人数が少なく二次会は無しでした。

NEWS

Scienceの2月25日号はカッシーニが観測した土星の特集号です。次の論文が掲載されています。

1 3篇の論文が掲載されています。我々にも興味深い2篇の論文のコピーを同封しました。

- 1 A.Sanchez-Lavega How Long Is The Day On Saturn
- 2 C.C.Porco Cassini Imaging Science: Initial Results On Saturn's Atmosphere

1は土星の自転周期に関するもので、著者のSanchez-Lavegaはこの道の専門家です。
 2は大気中の模様と風速に関するもので、著者のPorco女史はIngersoll先生のお弟子さんです。

次回例会：5月29日（日曜）午後1時より

場所 川崎市麻生市民館（小田急線新百合ヶ丘駅前）

地図はこちら <http://www.city.kawasaki.jp/88/88asaosi/home/map.htm>

木星会議のご案内（別紙の捕捉）

木星会議が開催される旭川市科学館（新）には、ツアイス製のプラネタリウムが日本では43年ぶりに導入されています。併せて全天周ビデオ映像もお楽しみいただけます。2日目の午後には渡部潤一先生による「カッシーニが見た土星」という一般向けの講演も予定されています。

また市内の旭山動物園はこれまでとはちょっと違った見せ方の動物園として全国的に有名です。これを機会に是非訪れてみて下さい。（ただし休日は混むことが予想されます。）

他に有名なのはラーメン村（8軒のラーメン店があります。）、男山酒造の蔵元、地ビール館などがあります。

各航空会社とも特割を設定している時期にあたります。早めに予約しておけば驚くほど安くいただけます。

第29回木星（観測者）会議のご案内（第一報）

第29回木星会議を旭川において詳細はまだ未定ですが下記の要領で開催いたします。北海道での開催は初めて（最北は山形）です。遠方での開催となりますが、みなさまお誘いあわせのうえ出席くださいますようお願いいたします。詳細が決まり次第随時情報を公開致します。

- 日 程：2005年9月10日（土） 13時から
2005年9月11日（日） 12時まで
- 場 所：旭川市科学館（旭川市宮前通東（北彩都あさひかわシビックコア地区））
- 主 催：旭川天文同好会、サイエンスボランティア旭川
- 共 催：月惑星研究会
- 後 援：旭川市科学館
- 参加資格：木星型惑星に興味のある方ならずべて
- 内 容：2004-05シーズンの木星面の状況
木星型惑星の観測・研究に関する研究発表 など
プログラム（確定次第公開致します）
特別講演 旭川市科学館天文アドバイザー 渡部潤一先生（国立天文台）
- 研究発表
- 募 集：研究発表を募集します。研究発表は、2日目(9/11)の午前中を予定しています。
発表時間は一人20・30分を予定しています。
- 参加費：一般 3,000円、学生 2,000円
- 懇親会費：一般 未定、学生 未定
- アクセス：航空各社の格安チケットサービス（バーゲンフェアや超割、AIRDO スペシャル等）
をご利用頂けると交通費を節約できます。
- 宿 泊：宿泊施設はございません。各自でホテル等ご用意下さい。
- 申 込：
- 氏名：
住所：〒
電話番号：
e-mail：
所属団体：
研究発表：有 ・ 無
題名：
所要時間： 分
懇親会：参加する ・ 参加しない
備考：学生の場合はその旨を記載

※必要事項を記入の上お手数ですが、e-mailもしくはFAX等にて8月10日頃までにご連絡くだされば幸いです。

問い合わせ：阿久津 弘明

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

旭川医科大学医学部附属実験実習機器センター

e-mail: HCA02062@nifty.com（半角英数に直して下さい）

FAX: 0166-68-2649

案内は <http://cent-scorpio.asahikawa-med.ac.jp/akutsu/astro/kyokuten-room/JupiterConference2005/>にもあります。